

実生活や実社会の諸課題に対して総合的に活用できる力を培う教科横断的なカリキュラム・マネジメントの試み

三崎隆(信州大学),村松浩幸(信州大学),茅野公穂(信州大学),小松孝太郎(信州大学),油井幸樹(信州大学),中田雄大(信州大学教育学部附属松本中学校),笠原大弘(信州大学教育学部附属松本中学校),須江直喜(信州大学教育学部附属松本中学校),矢代祐介(信州大学教育学部附属松本中学校)

研究概要

中学校において、実生活や実社会の科学技術に伴う諸課題に対して知識・技能／思考力等を総合的に活用できる力を培う教科横断的な探究を指向する単元の構築を図る。そこでは、実生活や実社会の科学技術に伴う諸課題の解決に向けて、数学、理科、技術の各視点からの協働的なアプローチを可能とするカリキュラム・マネジメントを試みる。カリキュラム・マネジメントの試行による当該単元の構築に当たっては、身の回りの現実的な科学技術を伴う諸課題に対して、数学、理科、技術の各教科ないしは当該教科の各領域から多角的協働的にアプローチを可能とする資質・能力、方法、内容を洗い出す。そして、当該単元を学修する生徒の学びに表出する様態を記録し、その結果の分析から教育効果を予備的に検討する。

研究目的

本プロジェクトでは、中学校において、実生活や実社会の科学技術に伴う諸課題に対して知識・技能／思考力等を総合的に活用できる力を培う教科横断的な探究を指向する単元を構成し、数学、理科、技術の各視点からの協働的なアプローチを可能とするカリキュラム・マネジメントを試みる。表出する生徒の学びの様態の記録から、その教育効果を予備的に検討することを目的とする。

計画・方法

①研究の学術的背景

中教審教育課程企画特別部会は平成27年8月26日に論点整理を公表した。その中で、これからのカリキュラム・マネジメントの3つの側面の必要性を示している。「①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。③教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。」である。しかし、具体的な実践事例は皆無であり、その実態並びに教育効果も議論されてない。特に、学校現場においては、実社会の諸問題に総合的にアプローチできる能力をいかにして育成するかについては今後の授業実践に関する研究成果を待たなければならない。今後、カリキュラム・マネジメントを指向した実践に表出する児童生徒の学びの様態の変容の成果が蓄積され、それらが解明されることによって、アクティブ・ラーニングにおける成果とともに両者を両輪として培われる生きる力を修得した児童・生徒が21世紀の社会をより良く構築していくことが期待される。多様化する社会が求めるグローバル化に対応できる人材の育成への迅速な対応も可能となる。

②研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

中学校において、実生活や実社会の科学技術に伴う諸課題に対して知識・技能／思考力等を総合的に活用できる力を培う教科横断的な探究を指向する単元の構築を図る。カリキュラム・マネジメントの試行による当該単元の構築に当たっては、身の回りの現実的な科学技術を伴う諸課題に対して、数学、理科、技術の各教科ないしは当該教科の各領域から多角的協働的にアプローチを可能とする資質・能力、方法、内容を洗い出し、当該単元を学修する生徒の学びに表出する様態の記録から、その教育効果を予備的に検討する。

③当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

学術領域を背景とした教科を主体とする中学校においてカリキュラム・マネジメントを指向した授業実践の試み、そこでの教科の枠組を超えた生徒同士による総合的、協働的な学びの予備検討、カリキュラム・マネジメントによって獲得する資質・能力、方法と内容の総合化の洗い出しを可能にする点に学術的な特色及び独創性を有する。

成果として、既存の複数教科による教科横断的なカリキュラム・マネジメントの授業プログラムの提案、そこでの生徒同士の協働的な学びの予備的検討、獲得する資質・能力、方法と内容の総合化への示唆が挙げられる。それらは、学校現場のカリキュラム・マネジメントによる授業改善への指針を与えることが大いに期待できる。今後、学校現場に導入される教科間でのカリキュラム・マネジメントの速やかな実践への円滑な橋渡しが可能となる。これらの点から、その教育的、学術的意義は大きい。

①教育活動における生徒の発話及び行動の録画等の記録集積に当たって、事前に当該校の許可を得るとともに、録音した音声、録画した映像については本研究の目的以外には一切使用しない。学会発表する場合は、個人名が特定されたり特定の個人の人権が侵害されたりすることのないようマスクの画像処理を施す。集積した録音記録及び録画記録の情報は、研究期間中は電子媒体はセキュリティ管理可能な情報保管機器においてパスワード管理し、紙媒体は施錠できる棚にて管理する。研究期間終了後に一切を破棄する（電子媒体は消去処分し、紙媒体はシュレッダー処分する）。

②申請者はこれまでアクティブ・ラーニングに関する学習臨床的な教育研究について教科横断的な研究も含めて継続して取り組んでおり、その蓄積された成果は数多くの論文、書籍にて公表するとともに全国の小、中、高校において率先してその成果を披露し、学校現場における授業改善に資する活動に取り組んできた。また、チーム構成員とは以前から継続して共同研究を行っており、現在も密接に連絡を取り合っている。

③本学部附属松本中学校においてカリキュラム・マネジメント研究を実施する協力体制は整っているため、本プロジェクト推進に当たっての支障はない。